

須山線の現況および今後の再編について

(1) 須山線

◆この路線の概況

三島市から裾野市を縦断する幹線系統で、沿線から裾野駅・三島駅や他の公共交通機関に接続する、通勤・通学を中心とした公共交通ネットワークを構成。裾野市内では、須山地区からの通学需要や、鉄道・バス等の他公共交通機関への接続によるネットワークを構成する要素となっている。

◆利用状況・収支状況

須山線（須山発着）

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額
					国庫補助	県補助	
2018年度	76,927 人	37,395 千円	16,202 千円	▲21,193 千円	4,633 千円	4,633 千円	▲11,927 千円
2019年度	75,185 人	37,449 千円	15,129 千円	▲22,320 千円	3,529 千円	3,529 千円	▲15,262 千円
2020年度	57,106 人	36,848 千円	13,915 千円	▲22,933 千円	7,505 千円	3,631 千円	▲11,797 千円

須山線（下和田・帝人アカデミー富士発着）

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額
					国庫補助	県補助	
2018年度	54,814 人	17,549 千円	10,373 千円	▲7,176 千円	1,844 千円	1,844 千円	▲3,488 千円
2019年度	52,974 人	18,457 千円	10,562 千円	▲7,895 千円	1,972 千円	1,972 千円	▲3,951 千円
2020年度	44,432 人	18,021 千円	9,155 千円	▲8,866 千円	2,798 千円	2,332 千円	▲3,736 千円

◆2020年度の運行状況と今後の運行について

須山線は、須山発と下和田・帝人アカデミー富士発着の2路線で構成されています。

2020年度は国および静岡県からコロナ禍による特例分もふくめて約16,200千円の補助をいただいております（赤字額の約55%）。しかし、最終的には須山線合計で15,500千円の赤字となっております。

また、コロナ禍において下和田・帝人アカデミー発着のもの、国庫補助対象の基準を下回る利用実績となり、国庫補助の補助要件を満たさない状況となっております。2021年度～2022年度については、コロナ禍における救済処置として、国庫補助対象となりますが、緩和処置終了後に需要が回復し、要件を満たせるかは難しいと考えております。

そのため、今後の運行を継続するには、引き続き国庫補助を受けるため、系統を集約することで補助要件を満たすとともに、皆様の協力を得て新たな需要の獲得、そして何よりも重要な安全運行の継続のために再編を行いたいと考えております。

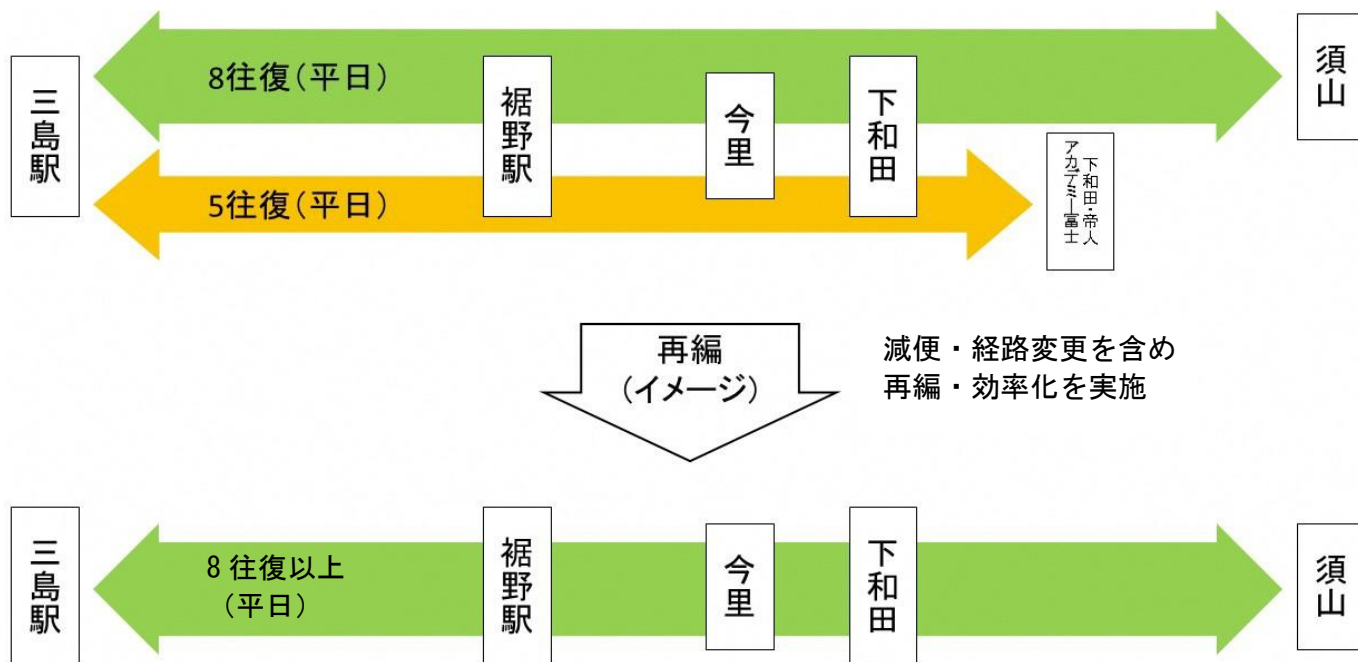
当社としても、須山線の運行を継続したいと考えておりますので、何とぞ今後の運行継続について、ご支援を頂きたいとお願い申し上げます。



◆須山線の再編について(案)

I：須山線の2系統の統合について

須山線の下和田・帝人アカデミー富士発着系統が国庫補助の補助要件を満たさないことから、須山発着に統一することで補助要件を満たしつつ、全体として減便を行いながら、支援を受けた運行を引き続き実施する事で、今後の路線維持を図っていくことを考えております。



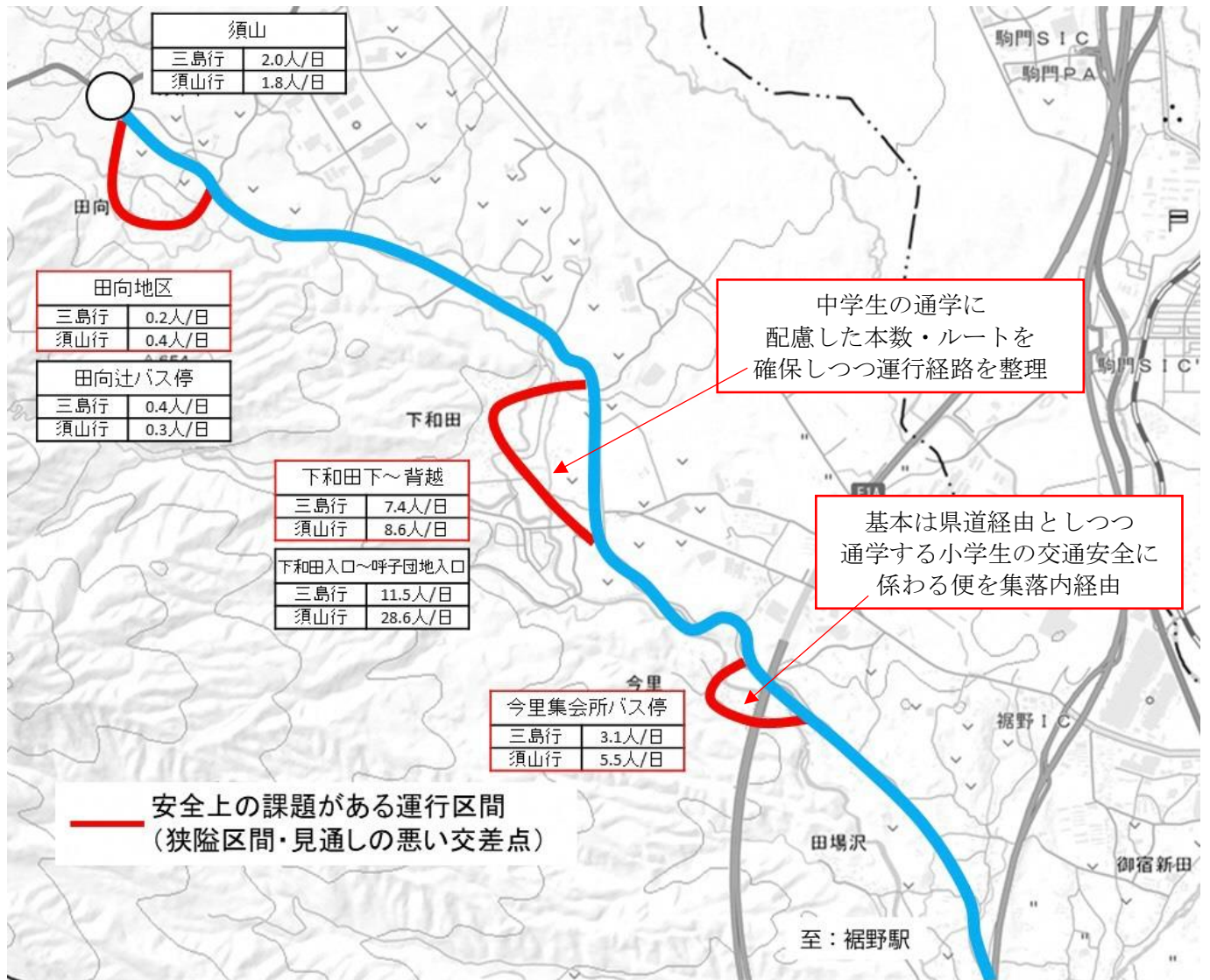
II：集落内乗入れの見直し

須山線においては、今里・下和田・田向の集落に乗り入れております。

須山線が運行を開始した昭和の時代は交通量の少なさから安全上の支障はなかったものの、平成・令和と時代を経るにつれ、車両の交通量も増えており、各地区とも県道24号線に出る交差点においては、坂に位置する、また見通しが良くない等、安全上の課題となっております。

そのため、県道24号線経由を基本の運行経路とすることで、運行の安全性を向上いたしたいと考えております。

(課題のある運行区間)



(写真：今里地区における例)



(2) トヨタ自動車東日本線

◆この路線について

本路線は、トヨタ自動車東日本線は平成18年8月の関東自動車工業の裾野市への本社移転を機に運行を開始した路線です。

現在は三島駅北口から2往復/日、裾野駅から0.5往復/日を行っているしております。なお、平成23年からは、少しでも収支を良くするため、御殿場特別支援学校へ延伸し混乗輸送を開始しております。

平成24年にはトヨタグループ内の再編が実施され、関東自動車工業はトヨタ自動車東日本となり、本社機能は徐々に宮城県に集約され、バス利用は年々減少しており、昨年(2020年)12月の東富士工場閉鎖に伴い、路線バス利用者数が大幅に減少したことから、今回の申し出に至りました。

なお、特別支援学校の高等部生徒の利用状況については、2019年度以前は10~15人程度、2020年度は5~6人程度の利用がみられます。

◆今後の方向性

今般の再編策として、コロナ禍やトヨタ自動車東日本東富士工場の閉鎖に伴い利用が減少していることから、御殿場特別支援学校の利用に特化して、三島駅~御殿場特別支援学校間の運行に短縮することで、赤字を削減することにより、運行継続を検討しております。

- ・トヨタ自動車東日本線については、御殿場特別支援学校の利便を確保して運行を継続。
- ・三島駅北口~裾野駅間は、他の系統で利便を確保します。

